

当案内および過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の測定試薬につきましては、非小細胞肺癌の治療薬の適応判定の補助を目的として、EGFR遺伝子変異、ALK融合遺伝子、ROS1融合遺伝子、BRAF遺伝子変異(p.V600E)、RET融合遺伝子、HER2 (ERBB2) 遺伝子変異、MET遺伝子変異(エクソン14スキッピング)、EGFR遺伝子エクソン20挿入変異に加えて、KRAS遺伝子変異(p.G12C) がソトラシブに対するコンパニオン診断システムとして薬事承認を取得し、12月25日付で保険適用が追加されました。つきましては、下記の期日よりKRAS遺伝子変異を含めた検査を開始いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

新規受託項目

- [13623] 肺癌マルチCDxオンコメイン (8遺伝子)

受託開始日

- 2026年1月5日(月)

[13607] 肺癌マルチCDxオンコメインは2025年12月26日(金)をもって受託を中止いたします。

【肺癌マルチCDxオンコメイン(参考情報付)について】

[13640] 参考情報付につきましては、KRAS遺伝子変異が保険適用になったことから、2026年1月5日報告日分より項目名に付記する「参考情報」を削除いたします。項目コードの変更はございません。



検査要項

項目コード	13623		
検査項目名	肺癌 マルチCDx オンコメイン (8遺伝子) *1~3		
報告様式	子1 子2 子3 子4 子5 子6 子7 子8 子9 子10 子11 子12 子13 子14 子15 子16	13624 13625 13626 13627 13628 13629 13630 13631 13632 13633 13634 13635 13636 13637 13638 13639	EGFR p.E709X EGFR p.G719X EGFR Ex 19 Deletion EGFR Ex 20 Ins EGFR p.S768I EGFR p.T790M EGFR p.L858R EGFR p.L861Q EGFR p.L861R BRAF p.V600E KRAS p.G12C (新設) ERBB2 (HER2) ALK Fusion ROS1 Fusion MET Ex 14 Skipping RET Fusion 各遺伝子変異について、検出せず/検出/判定不能/省略にてご報告します。
検体量/ 保存方法	未染スライド 5~10枚 (5μm厚) *4~8 [容器番号: 30番] / 常温 または 組織 100mg (5mm角) [容器番号: 27番] / 凍結 (-70℃以下)		
検査方法	次世代シーケンス法		
基準値	検出せず		
所要日数	7~11日		
検査実施料	20,000点 (8,000+12,000) 以下を合算して算定ください。 ・ [D004-2] 悪性腫瘍組織検査 [1] 悪性腫瘍遺伝子検査 注1 ハ 4項目以上 8,000点 ・ [D004-2] 悪性腫瘍組織検査 [1] 悪性腫瘍遺伝子検査 注2 ロ 3項目以上 12,000点		
判断料	100点 (遺伝子関連・染色体検査判断料)		
備考	<p>*1: 受付曜日: 月~金曜日 (休日は受付不可)</p> <p>*2: ご依頼の際は、『肺癌 マルチCDx オンコメイン 検査依頼書』をご利用ください。また、肺癌CDx 核酸抽出 (項目コード: 45710) を併せてご依頼ください。</p> <p>*3: 研究用途を目的とした46遺伝子を含んだレポートが必要な場合、マルチ遺伝子レポート (研究用) (項目コード: 45726) を併せてご依頼ください。</p> <p>*4: ブロックおよびパラフィン切片での受託はできません。</p> <p>*5: 病理組織診断にて腫瘍が認められた部位を本検査で必要な腫瘍細胞含有率が30%以上となるようにマーク (実線で囲む) したHE染色スライドを併せてご提出ください。HE染色スライドの提出がない場合やマークがない場合には、スライド全体を使用します。</p> <p>*6: 極小検体の場合は、10枚以上ご提出ください。腫瘍細胞含有率が不足の場合は、偽陰性の可能性があることをご了承願います。</p> <p>*7: 強酸による脱灰操作をした検体は検査できません。</p> <p>*8: ホルマリン固定検体では、固定条件によって核酸の断片化が著しく、解析不能となる場合があります。組織検体の推奨固定時間は6~48時間です。微小な組織検体や細胞検体では固定時間の短縮化が望ましいとされています。腫瘍細胞含有率は面積ではなく、全有核細胞に対する総腫瘍細胞数で判断してください。検体の取り扱いについては、日本肺癌学会バイオマーカー委員会編「肺癌患者におけるバイオマーカー検査の手引き」および日本病理学会「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」をご参照ください。</p>		

[ご依頼に際しての注意点]

検査に当たり、被検者に対し本検査の目的、限界および46種のがん関連遺伝子を解析するなど、本検査の要項を説明し、被検者自身の承諾が文書で得られたことを前提としてご依頼ください。また、参考情報付報告書および研究用レポートをご依頼の際は、上記に加え診断薬として未承認の遺伝子変異を報告することも、併せてご説明ください。